

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立三間中学校

1 自己評価書

教育目標 夢を力にたくましく生きる生徒の育成						
基本方針 本校の歴史と伝統を継承し、地域に愛され地域に貢献する活力ある学校づくりを推進する。						
本年度重点目標 生きる力の育成と充実を基盤に、知・徳・体、調和のとれた生徒の育成を図る。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A B	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	<p>(成果と課題)</p> <p>○ 授業改善に向けた取組やふるさと学習の推進については、教職員・生徒は概ね満足できる状態である。</p> <p>● 家庭学習や読書活動については、前期と比して評価が下がっており、教職員による具体的な対策及び家庭との連携が十分にできていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ より良い家庭学習習慣を確立するために、タブレットを効果的に活用するとともに、保護者との共通理解を図ってきたい。</p> <p>・ 登校が遅れがちの生徒やアンケート等の入力で、朝読書の時間に読書に取り組めていない生徒が多いため、読書の時間は読書を徹底させるなど、全校で妥協せずに取り組ませる必要がある。</p>					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
③		基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A B A	A
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	A B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○ いじめ・不登校問題に対しては、こまめに情報を共有し、組織として対応することができている。</p> <p>● 部活動等での活躍やボランティア活動への取組が自己肯定感や自己有用感の醸成に十分に繋がっていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ 報告・連絡・相談を徹底し、引き続き組織的な対応ができるよう生徒指導体制の維持に努めたい。</p> <p>・ 生徒の成長や変容を確実に捉え、認めたり、生徒同士で互いの良さを認め合ったりする機会を設け、生徒自身の意欲の向上や自信につなげていきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。		・教師アンケート	B	B	
③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 職場内の雰囲気は良く、互いの専門性や性格を理解しながら業務に取り組むことができている。</p> <p>● 超過勤務時間が月80時間を超える職員が複数名おり、十分な負担軽減にはつながっていない。人員の増員が一番望まれるが、思い切った業務削減、職員間の業務の平準化等にも引き続き取り組む必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールサポートスタッフや支援員、学校補助員等を効果的に活用していくことで、負担軽減を図っていく。 ・ 机上の整理や提出期限の確認、複数の目によるチェックによって、無駄な時間を削減していく。 ・ ICT機器を積極的に活用することで、時間短縮や効率化を図っていく。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
・保護者アンケート	A				
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々に来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
・保護者アンケート	A				
・地域アンケート	A				
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 学校運営協議会において、ふるさと学習に関する熟議、本校生徒のスマホ利用の実態等に関する協議を行った。また、再来年度からの制服変更に向けた協議も数回行い、貴重な意見を得ることができた。</p> <p>● 通学路の危険箇所等については、情報共有は図れたが、具体的な改善ができたものは少なかった。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会の内容によっては、本校職員の参加を増やし、地域の思いや課題をしっかりと共有できるよう工夫したい。 ・ 教職員が地域を知ることが運営協議会の活性化にもつながる。地域の人材、教材を生かせるようなカリキュラム・マネジメントに取り組みたい。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満